データから社会を「診断」する

社会マスメディア系専攻
講師
とよながこうへい
豊永耕平
kohei.toyonaga@socio.kindai.ac.jp

https://researchmap.jp/toyonaga_kohei

◆研究概要等

専門は教育社会学・社会階層論です。これまで①学歴・教育は人びとのキャリアにどのような影響をもたらしている（もたらしていない）のか、②そうした学歴の獲得や、実際の進路選択のプロセスにはどのような格差・不平等が生じているのかを、社会調査データの計量分析を主なアプローチとしながら研究していました。

●略歴

2018年～20年　日本学術振興会特別研究員DC2
2020年～23年　立教大学社会学部　助教
2023年～　　近畿大学総合社会学部に着任

●Keywords：

格差（教育格差、学歴間格差、男女間格差…）、不平等、教育、労働、家族、混合研究

■研究テーマ等

1．教育格差の生成メカニズムの研究

子ども本人には変更することができない初期条件（両親の職業・学歴・収入／性別／出身地など）によって子どもの教育には格差が生じています。たとえば恵まれた家庭の子どもは学習環境がよい傾向にあるし、学力や高校偏差値も高くなるので最終学歴も高い傾向にあります。それとは対照的に、恵まれない家庭の子どもは学習環境が良くないことが多く、学力や高校偏差値も低くなりやすいので、結果的に大学にも進学しにくいです。恵まれた家庭に生まれると、恵まれない家庭よりも社会経済的地位（職業・収入など）が高くなりやすいことになります。

江戸時代のように「生まれ」によって子どもの将来が左右されており、しかも人びとが学校教育の公平性を信じることで正当化・隠蔽されているのですが、こうした教育格差の問題がどのように生じているのかを研究しています。

2．学歴間格差の生成メカニズムの研究

人びとが獲得した学歴は「能力」の代理指標としてキャリアを大きく左右します。学校教育が人びとの「能力」を本当に高めているのか、それとも「本当のところは不明だけど、能力が高い（低い）に違いない」という情報源なのかは識別が難しいです。しかし、教育が人びとの職業・所得のみならず結婚相手や健康状態など多くのものを左右していることは事実です。

このような学歴間格差がどのように生じているのかを研究しています。一例をあげると、今は民間企業の人事担当者を対象としたオンライン履歴書実験をしています。これは架空の履歴書をたくさん作成し、それぞれの履歴書を人事担当者に評価してもらうことで、いわゆる学歴フィルターがあるのかどうかとか、求職者の学歴以外の情報は見られているかとか、新卒採用における学歴間格差を分析しています。

３．混合研究法を用いた実証研究

社会を測定する方法には、質問紙調査データの統計分析などの量的研究と、実際にフィールドに足を運んで調べる参与観察やインタビュー調査などの質的研究があります。前者は、たくさんの調査対象者に回答してもらった膨大なデータを統計解析することで社会全体を大きく測定することができます。しかし、そのかわりに人びとがどういう意図でその質問に回答しているのかといった主観や意義づけには手が届きません。その一方で後者は、相対的に少数の調査対象者に綿密に聞き取りを行うことで、人びとの置かれている立場や意義づけなどの細かい情報は測定できます。しかし、今度は、社会全体の様子はわからなくなってしまうというトレードオフが生じます。

こうした中で、量的研究と質的研究を戦略的に組み合わせて調査する混合研究法（MMR: Mixed Methods Research）という研究手法が注目されており、それを教育格差や学歴間格差に関する研究に適用することを試みています。たとえば下記の『学歴獲得の不平等：親子の進路選択と社会階層』という書籍では、親子を対象とした質問紙調査を使用して高校生の進路選択を統計分析し、その上で高校生とその母親にインタビュー調査も行うことで、教育格差が生じるメカニズムに接近しています。人事担当者を対象とした履歴書実験でも人事担当者に対するインタビュー調査も組み合わせることで就職機会の学歴間格差の生成メカニズムに接近しています。量的・質的研究の双方をうまく活用する姿勢は重要だと考えています。

●論文・作品・表彰・特許等

1. 豊永耕平, 2018, 「出身大学の学校歴と専攻分野が初職に与える影響の男女比較分析 ： 学校歴効果の限定性と専攻間トラッキング」『社会学評論』69(2):162-178。
2. 豊永耕平, 2018,「高学歴化・経済変動と学歴：上層ホワイトカラー入職に対する学歴効果の変容」『教育社会学研究』103:47-68。
3. 豊永耕平, 2020, 「高等教育の大衆化と大学進学の不平等：社会階層・学業達成がもたらす影響力とその変化」『年報社会学論集』33:61-72。
4. 豊永耕平, 2023, 『学歴獲得の不平等：親子の進路選択と社会階層』勁草書房。

▲趣味等

海外旅行が大好きで、これまで35カ国くらい渡航しました。大学生の頃は予備校講師のアルバイトや学園祭の運営委員をやったりもしていましたが、長期休みはバックパッカーとしてリュックサック１つで数ヶ月くらい海外を放浪していました。今でもふらっと海外にお出かけしたり、国内で温泉地巡りをしたり、オンライン英会話をしたり、韓国ドラマを観たり、わりと好奇心旺盛な方だと思います。

◆ゼミの宣伝等

担当教員の専門は教育社会学／社会階層論ですが、卒論にするテーマは何でも構いません。ただし、インタビュー調査でも、統計分析でも、何でも構わないので、何らかのエビデンス（データ）に基づいて研究をすることを期待しています。これまで感じてきた疑問を大切にしながらも、客観的な根拠をもとにして社会を「診断」し、それを踏まえて適切な「処方箋」を出せる人になってほしいと思います。